

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500127		
法人名	(株)名東介護センター		
事業所名	グループホーム エム・ケア名東 3階ユニット		
所在地	愛知県名古屋市中東区高間町43		
自己評価作成日	平成27年1月11日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後4年が経過し、認知症が進み要介護度も高くなっている中で、職員は介護するうえで一人一人の生活ペースを大切にしている。全員が同じ行事に取り組むというよりも、個別の関わりが必要なユニットで個性(認知症の進行度)に合わせた日課の進行を支援している。認知症の特徴として自らの不調を訴えられないため、施設内に在籍する3名の看護師を中心に日々の健康管理が行き届いており、緊急時にも医師との連携も確にできている。このユニットの計画作成担当は、老年看護を専門に学んだ看護師であり、日々のアセスメントに加えて認知症ケアの実践・職員教育にも取り組んでいる。要介護度が上がり介護に手間のかかる利用者が増える中、月一回のほぼ全員が集まる会議・研修への会社からの支援も確立されており職員教育も充実しており職員の定着率も良い。看取りケアを実践しており、開設以来施設内にて、ご家族も含むチームケアにより全員の方の安らかな最期を看取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念は「共に生きる」であり、職員と利用者が共に支えあうことを研修や会議で確認しあい、実践・アセスメントに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のダンス教室の皆さんが定期的に慰問に来ていただいたり、和太鼓のサークルの皆さんのご披露もある。小規模の開穂日には地域の御馴染さんの来所もあり、地域の方々の出入りは多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は地域包括支援センターの「認知症介護教室」の講師を行っており、施設内においても電話や来所での介護相談を受けて必要な助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、施設内におけるケアや職員研修の様子などを公表し、活発な意見交換を交わしている。議事録を作成し、職員全員が確認している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内の取り組みや事故報告についても随時名古屋市へ報告し、指導を受けながら対処している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を毎年実施し、職員全員が正しい知識を身につけて日々のケアに取り組んでいる。施設の出入り口の施錠は日中は出入り自由になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を毎年実施し、虐待の内容について理解するだけではなく、自分の”虐待に関する認識”についても見直すように施設長が指導している。職員同士がお互いに注意し合っている。開設以来、身体拘束はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」に関する研修を事業所内で実施している。成年後見制度を利用している利用者が、その手続きがスムーズに行くよう必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長が行い、十分に面談の時間をとっている。終末期における希望も身元引受人に確認している。施設の窓口を施設長とし、いつでも相談可能を明示することで不安緩和できるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、利用者と家族に参加してもらうことで意見や要望をくみ取って今後の反映につなげている。その取り組み状況についても、次回以降の会議で報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の場で、お互いの意見や提案を活発に議論し、決定事項はケアに反映させている。職員ノートを活用し、意見や提案をすくいだしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回施設長との面接を行い、個人目標を確認している。時間外や職員研修参加の手当や年末年始の特別手当等を支給し、職員のやりがいにつなげている。職員研修では夜食を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア学会ににおいて施設内ケアの取り組みを発表している。施設外の研修参加や資格取得については積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設の管理者が交流するネットワークに参加し、お互いに情報交換している。外部研修や施設見学等で同業者との交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入にあたっての相談段階から、本人が困っていることに耳を傾け、家族からの聴取を元にセンター方式を使用してアセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を使用してこれまでの人生の過ごし方を家族に記入してもらっている。家族の困りごとに対して傾聴し、関係づくりに努めている。随時相談を受け付けていることを説明し、家族の不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行や状態が変化した時、施設長より家族へ随時説明がなされ、必要なサービス利用も含めて提案がされている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の理念「共に生きる」を元に、施設で猫を飼う「アニマルセラピー」、職員の赤ちゃんのお世話を「赤ちゃんセラピー」により、役割感を持ちお互いに支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談窓口は施設長とし、随時受け付けている。家族からの相談事のみならず、施設からも今後予測される利用者の情報を提示し、利用者にとって良いケアとは何かを常に意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やこれまで親しかった人の面会は随時受け付け、本人の飼っていたペット同伴の面会もある。本人の外出時はスムーズにいけるよう、必要な情報提供や支度を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のやりとり場面を観察し、相性なども把握した上で職員がフォローしている。フロア席の配置なども配慮している。認知症の進行度に合わせて様々な個別ケアを検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設よりお見送りした利用者の通夜・告別式には職員が参列させていただいている。代表者は初盆にはお供えをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉による自己表現が難しくなってきた認知症の方に対して、これまでの生活情報や表情、行動から思いをくみ取りケアに活かすようにしている。様子を記録に残したり意見交換に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を家族に記入してもらい、これまでの生活歴や好きなことをケアプランに組み込み、実践に活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄・入浴・食事・健康状態を24時間シートを用いて切れ目なく記録している。状態の変化があれば、適宜家族へ連絡、ケアプランの見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に特段の変化がなければ半年に1回、サービス担当者会議を行い生活の様子や認知症の進行具合の報告を行い、その上で家族の希望を再確認してケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を用いて日々の生活の様子、ケアの実施・反応に関する客観的情報を24時間シートに記入している。職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体の状態や生活の様子に変化があれば、家族へ連絡・意向を確認して、必要なサービスが受けられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(盆踊りや運動会)に参加したり、ボランティアの方に慰問に来ていただいたりして、地域とのつながりをはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は24時間対応。看護師と主治医の連携により、日々の健康管理を行い、異常時には適切な医療機関への紹介を行い、必要な手配も施設が行っている。個々のご家族の希望も医師へ伝え十分に考慮されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設内に複数在籍し、健康管理は細やかに行われている。異常があれば、看護師より施設長に報告がされ、都度家族・医師に相談がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医からの情報提供書を持参し、職員が面会に訪れ、病院との情報交換を行うことで利用者の混乱を最小限にしている。入院後も施設長が家族へ連絡を取り、家族の意向を病院側へ伝えていく調整的役割を担っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から、家族に終末期のあり方を確認し、看取りケアについて時間をかけて説明している。密に家族と連絡を取り、施設長より段階的に報告・説明を行い、医師とも密な連携のもとすすめている。当施設では開設後多くの看取りケアの実績があり、施設全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、それに沿って報告・相談を行っている。施設内にAEDを設置し、専門機関より定期的な研修会を行って技術の体得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	名東消防署、防災点検会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・通報訓練を年に2回行っている。職員・利用者共に参加し、施設における災害対策に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の整理は職員と利用者で一緒に行ったり、居室へ入る際にはノックや本人に声掛けを行うなどの対応をしている。習慣で居室に鍵をかける方もいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にとって分かりやすい短い言葉と反応をみながら関わることを職員に教育している。入浴は希望があれば自由に、夜間も含めて入ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースを大切に関わっている。希望に沿えるよう、喫茶店や買い物などの外出も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を2か月に1回利用している。お化粧が好きだった人には職員が手伝いながらお化粧を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに食事指示書を作成し、安全で楽しく食べてもらえるように取り組んでいる。現在は要介護度が上がり食事関係と一緒に取り組むことが難しいこともあるが、お皿拭きなどできることを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間継続した記録用紙を用いて水分量や食事量について記録している。量が少ない人には適切な栄養がとれるように職員が意識的に関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを行っている。口腔内に問題があれば訪問による歯科医師・衛生士に依頼する体制もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	反応や様子を見て個別にトイレ案内を実施し、便器での排泄ができるように取り組んでいる。24時間継続した排泄記録だけではなく、必要時は集中的に排泄アセスメントを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の管理を看護師中心に実施している。水分量を増やす、排便を促す食べ物の工夫、適切な運動等により自然排便を促す取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴を含めていつでも入浴できている。一人ひとりに合った入浴方法で、気持ちよく清潔が保てるように職員が支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いすを使用している方は座りっぱなしにならないよう、ベッドへの適宜の案内をしている。寝具は定期的に交換し、本人使い慣れた寝具の持ち込みも含めて気持ちよく過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬のセットが行われ、看護師指示のもと、職員が内服介助を行っている。症状の変化があれば、医師との連携をもって早期に対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会は個別で好みに合わせた企画を行っている。日常では外食やなじみのデパートでの買い物など一人ひとりの希望に沿えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じられるようなドライブを企画し、利用者全員が参加できるように工夫している。盆踊りや運動会への見学にも職員と出かけ、地域との交流も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族に確認・相談のうえ、希望時はお財布を所持してもらっている。また、それ以外に理美容、喫茶店や買い物などは施設で預かっているお金から出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった場合、利用者と話せるように支援している。絵手紙教室で作成したハガキを家族にお渡ししたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には安全に配慮しながら季節に応じた飾りつけを取り入れている。施設内は常に温度・空調管理を行い、居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中にも畳スペースやソファ席を設けて、個別に過ごせるようにしている。冬はこたつも設けて、安全に配慮しながら居心地よく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなじみのものを持ち込み、自宅との差を少なくする工夫をしている。居室担当が定期的に居室の整理整頓・清掃を利用者と共に行い、居心地よく過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレや浴室は分かりやすいようにマークや張り紙を用いて案内している。フロアは見通しよく、洗濯干しや食器拭きなどの家事を見守りの元行ってもらっている。		